

会 議 録

| | |
|--------|--|
| 会議の名称 | 平成28年度第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会 |
| 開催日時 | 平成28年9月29日(木) (午前・ 午後) 15時00分 開会 (午前・ 午後) 16時00分 閉会 |
| 開催場所 | 茨木市役所 本館3階 第4会議室 |
| 議長 | 野口 義文 氏 (立命館大学産学官連携戦略本部) |
| 出席者 | 野口義文氏 (立命館大学 産学官連携戦略本部)、小牧義昭氏 (北おお さか信用金庫 総務部)、伊津田崇氏 (中小企業診断士)、辻田素子氏 (龍 谷大学 経済学部教授)、山田理香氏 (公募市民) 【5人】 |
| 欠席者 | なし |
| 事務局職員 | 徳永商工労政課長、吉田商工労政課課長代理、 武部商工労政課商工振興係長、浦商工労政課職員 【4人】 |
| 開催形態 | 一部非公開 |
| 議題(案件) | (1) 会議の公開について (2) 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金及び茨木市地域魅力 アップイベント創出育成事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査 |
| 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料3 産業活性化プロジェクト促進事業補助金・地域魅力アップイ ベント創出育成事業補助金の選考について ・資料4 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点 表 ・資料5 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業 審査基準及び 配点表 |

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 会議の公開について

事務局：①本部会及び議事録について
前回承認のとおり、公開とする。

②傍聴希望者：なし

3 趣旨説明

事務局：(資料1～5説明)

<質疑応答>

A委員：いばらき竹灯籠は新規事業なので、集客数は問わないということによいか。

事務局：新規事業については、過去の集客数による要件はないが、最終的には1万人の集客を目指すイベントであるということは求めている。

B委員：茨木ヴィンテージカーショーは、過去にどの補助金を使ったのか。

事務局：平成23,24年度に、今回と同じ「茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金」の交付を受けている。

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

茨木ヴィンテージカーショー実行委員会（以下申請者）からプレゼンテーションがあった。

<質疑応答>

C委員：ここ数年間は自己資金で開催していたが、今回補助金を申請することとなった理由は、車のオーナーから要望のあったタイヤの汚れ対策のマットなどを整備するためということによいか。また、そうすることで出展数の増加などの効果は見込めるのか。

申請者：出展したオーナーに次回の打診をすると、マットを用意してほしいと言われることが多いので、出展数には大きく影響する。車を大切にしているのはよく分かるので、こちらとしてもマットの用意は必要であると考えている。

C委員：今回、会場でフリーマーケットも行うということだが、ヴィンテージカーのメインターゲットは男性とその子ども、フリーマーケットのメインターゲットは女性という傾向があると思うが、その相乗効果も見込めるのか。

申請者：若者の車離れが言われているが、こちらとしては、まず子どもに車に触れてもらいたいと思っている。子ども一人で来場することは考えにくいので、家族連れで来場いただけるよう、フリーマーケットなどを企画している。

- D委員：茨木市とのかかわりや、茨木市で開催する理由はあるか。
- 申請者：自分自身がずっと茨木に住んでいることもあり、市に何かを定着させたい思いがある。音楽のイベントは既にあるが、各地でも数少ない車のイベントを開催することで、イベントとともに茨木市の名前を広めていきたい。
- D委員：今回購入するマットは今後も再利用するのか。
- 申請者：そのつもりである。
- B委員：今回は補助対象事業の「認知度向上事業」にあたると思うが、ヴィンテージカーの認知度向上なのか、それとも、ショーに付随してブースを出す飲食・物販店の認知度向上なのか。
- 申請者：茨木市をアピールするのにヴィンテージカーを使うという考えである。ブースを出す飲食・物販店やフリーマーケットの参加者も市民がほとんどである。市民が参加して、市をアピールできるようなイベントになればよいと考えている。
- A委員：他市のヴィンテージカーイベントが縮小傾向にあるということだが、今後、茨木市でイベントを続けていくためには何が必要と考えるか。
- 申請者：もっと子どもに来てもらえるような宣伝が必要だと考えている。車のオーナーはヴィンテージカーを見せたいと思っているので、もっとギャラリーを増やすことが必要である。また、車を走らせてパレードができれば、観客にもより楽しんでもらえるのではないかと考えている。今までパレードの提案もしてきたが、今のところ実現できていないので、商店街とのコラボ等も含めて、今後考えていきたい。
- A委員：ヴィンテージカーのフィギュアやミニチュアの販売はしているか。
- 申請者：している。
- A委員：現在 30 台の出展を確保しているということだが、残り 2 か月で計画どおりの 70 台を集めることは可能なのか。
- 申請者：可能である。毎回そのくらい集めてきた経験から、自信がある。
- A委員：地面が土だとオーナーが大事なヴィンテージカーを出展するにあたり、引っ込み思案になると思うが、その影響は大きいのか。
- 申請者：もともと土の上を走ることを想定していないが、グラウンドの中だけでも嫌がるオーナーもいる。ただ、車を停める位置にマットを敷くだけでも喜んでもらえるオーナーも多い。
- D委員：警察との協力や、交通安全の観点は何か考えているか。
- 申請者：今のところは特にない。
- D委員：車のよさを知ってもらうイベントとするなら自動車業界、交通安全の観点なら警察の協力を得るなどといった展開も、今後検討されてはどうか。
- 申請者：ぜひやってみたい。
- B委員：エントリー費は 5,000 円だが、このくらいが相場なのか。
- 申請者：無料のイベントもあり、5,000 円でも高いと言う人もいる。収支を考えると、この金額は必要と考えている。参加費をいただく代わりに、実行委員会で作成・販売している T シャツや協賛先からの商品を渡すなどの工夫をしている。
- E委員：「食のマルシェを開催」とあるが、飲食店には、ドライブインをイメージしたもの

などイベント用のメニューを作ってもらえるのか。

申請者：そこまでは求めていないが、イベント用のオリジナル商品を出す店もある。

【 審 査 】

(2) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

いばらき竹灯籠実行委員会（以下申請者）からプレゼンテーションがあった。

<質疑応答>

C委員：平成 26, 27 年度の来場者数と、今年度の来場者見込みは。

申請者：平成 27 年度は 3,600 人、平成 26 年度は 3,000 人。今年度は新たに総持寺を会場に加えるため未知数ではあるが、6,000 人を見込んでいる。

C委員：今年は駅から近い総持寺でも開催ということだが、前回からの会場である西河原公園は、駅から徒歩でどのくらいかかるのか。

申請者：阪急総持寺駅から徒歩 20 分くらいである。

C委員：駅から離れているが、会場までの誘導方法は。

申請者：駅から矢印看板を設置した。また、Facebook で頻繁に案内を発信した。

C委員：「3か年収支等計画」を見ると、平成 29 年度から委託料が4分の3程度に減っているが、何かめどがあるのか。

申請者：当初はステージイベントにお金を出して集客力のある人に出演を依頼していたが、イベント自体の知名度が高まったことから、少しでもお金のかからない人に依頼するなどするつもりである。

D委員：集客を上げる上で、事後のニュースではなく、いかに事前告知としてマスコミに取り上げられるかが重要と思うが、マスコミ活用について何か工夫はしているか。

申請者：第1回から毎回、朝日新聞が当日の地方版に記事を掲載してくださっている。また、JR茨木駅・阪急茨木市駅にポスターを掲示していただいている。ニュース番組のホームページにイベント告知のメールを送っているが、ニュースで取り上げてもらうのは難しい。ルートがあればぜひマスコミに協力をお願いしたいが、なかなか難しいのが現状である。

B委員：来場者の市内・市外の比率はどのくらいか。

申請者：来場者の8～9割は市内の方と見込んでいる。あとは、Facebookを見た市外の方がどのくらい来ていただけるか。

B委員：自立化計画も提出されているが、今後自立化に向けてどのような見通しを持っているか。

申請者：今年総持寺で開催することにより、どのくらい来場者が増えるかを見て、会場をどちらか1つに限定するなどを検討する。来年には総持寺にJRの新駅ができることもあるので、今年の総持寺開催の結果で、予算をつけるところ・削るところを検討したい。

B委員：来場者が増えると、協賛金や広告料が増えるのか。

申請者：地元の取り組みに協力しようという趣旨で協賛金や広告料をいただいているので、来場者数が増えると収入が増えるというところまでは考えにくい。どちらかとい

うと、イベントの知名度を上げることで広告が増える。今年も、去年にはなかった企業や竹を提供した保育園が広告を出してくださった。

A委員：今年では会場を増やすこと、夜の開催であること、開催日が1日であることを考えると、来場者が分散し、その分スタッフなど人的資源の投入も分散することとなり、効率面で不安感がある。一つの会場に絞るのも手かと思うが、どう考えているか。

申請者：今回どちらの会場にどれだけ来場されたかを見て、今後、どちらに重きを置くのか、または、まったく別の方向に成長させるのか、結果を見て考えたい。

A委員：竹害の竹を資源としているが、今後、竹害の是正が進むと活用できる竹が減っていくのではないか。そうなった場合、イベントの持続性についてどう考えるか。

申請者：里山センターの協力を得て竹を刈ってもらっているが、道路付近の竹や倒れている竹はなくなってきており、確かに竹害は改善されている。しかしながら、所有者の分からない竹や、持ち主が高齢で刈ることが困難な竹も一方であると聞いている。そういう部分も含めると竹はいくらでもあり、2～3年するとまた道路側にも生えてくるので、竹灯籠ができなくなるほどのことはない。今後、できるだけ竹田市の竹は減らして、茨木市の竹を有効活用していきたい。

A委員：イベントが終わった後は膨大な竹が残る。その竹はどのように活用しているのか。

申請者：今年では竹田市から4,000本、茨木市からも4,000本を考えている。去年は半分を再利用、もう半分は処分した。今年では去年再利用した量に加え、もう半分ほどの量を再利用する予定。一部は実行委員会の敷地に置いておき、外部から竹灯籠をしないと問い合わせがあった際に、そこから提供することもしている。

A委員：竹繊維で作務衣を作るなどの活用方法も聞くが、検討してはどうか。

申請者：ホームページを見た人から「竹細工をしているので協力したい」という問い合わせが来ることはあるが、竹田市と違って林業が発達していたり設備が整っていたりするわけでもないため、100%再利用が理想ではあるが、一部は処分せざるを得ないのが現状であり、活用方法も制限される。

E委員：市民ギャラリーで「光の回廊」と写真展を開催したということだが、イベントの開催自体を一緒にすれば、西河原までの動線の半分が光の回廊となるので、そのまま延長で竹灯籠を見に行こうと思う人もいるのでは。どちらも12月の開催なので、そういったことも考えてはどうか。

申請者：去年も光の回廊の点火式で竹灯籠をさせてもらうなど、少しずつ協力を進めている。当方としては、将来的には光の回廊と歩み寄って一つのことに取り組み、冬の茨木を盛り上げて行けたら良いと考えている。

【 審 査 】

以上